

しにせ 老舗メルマガ

国際派日本人養成講座

伊勢雅臣

神道の世界観を外国人に語ろう

2018年7月29日版

日本は古い神社や仏閣と

最先端のハイテク技術が同居する「ワンダーランド」

1. 各国首脳の神宮「参拝」

「幾世にもわたり、癒しと安寧をもたらしてきた神聖なこの地を訪れることができ、非常に光榮に感じます。人々が平和に理解し合って共生できるような祈る（アメリカ・オバマ大統領）」

平成28(2016)年5月、先進国首脳会議、通称「サミット」が伊勢志摩で開催され、各国首脳が伊勢の神宮を「参拝」した。外務省は当初、日本以外の参加国はキリスト教国のため、「参拝」ではなく「表敬」として、神道色をできるだけ消したいと考えていた。

2. 人間は自然の主人か、同胞か？

ところが、参加国の方から「日本に合わせたい」「日本の伝統文化を味わいたい」ということで、事実上の「参拝」の形式を取ることに了承を申し出て来た。内宮御正宮から出てきた各国首脳の顔は太陽の明るい光に照らされて、喜びと感激に溢れていた。各国首脳は次のような言葉を記帳した。一部だけを引用すると

これらの感想に共通するキーワードは「平和」である。確かに深い木立の中にひっそりと立つ白木造りの内宮の姿は平和そのものである。私見では、キリスト教文明には自然と共生していく、という思想はないように思う。人間は自然を支配するが、近代文明が自然を破壊し始めると、今度は自然を「保護」するということ関係がなか。

「日本の源であり、調和、尊重、そして平和という価値観をもたらす、精神の崇高なる場所」(フランス・オランド大統領)

日本には、「山の神様」もいらしやれば、「海の神様」もいらしやいます。太陽の神を「お天道様」、先祖を「ご先祖様」、礼儀のことを「世間様」と呼び、敬いを欠かしません。いかに日本人は、日本という共同体国家・社会のなかで、自然と人間のDNAが共生しているのかというあらわれでしょうか。「1, 807」

3. 全体主義か、自由民主主義か

自然と人間が共生しているように、人間同士も共生している。神道は「多神教」でありながら、一柱一柱の神様の動きはあくまで「自由で「平等」の存在になります」。「1, 1302」

共生とは、生きとし生けるものが自由かつ平等の中で、主体的に協力していく世界である。一本一草も鳥も魚も、そして人間も、自由平等に生きていく。万葉集には少年の防人から天皇まで身分の別無く、男女の差も無く、人の真心を素直に歌い上げた歌が平等に取り上げられているが、それはこの万物が自由、平等に生きていく、という神道の世界観が基底にあるからだろう。

4. 性悪説か、性善説か

しかも、神道の世界観においては、人間は神の分け命であるから、当然、その性は善である。時に個人的な欲望に駆られて悪をなすこともあるが、それは祓きや祓いで水に流すこともできる。これに対して、キリスト教の原罪説では、人間は性悪なものと捉え、だからこそ神にすがらなければならない。万能の神がなぜ人間を性悪に作ったのか、とは戦国時代にキリスト教に触れた我が先人たちが抱いた疑問であるが、その疑問は現代の日本人にも依然答えられない。

先般も弊誌「A」で紹介したように、最先端の脳生理学では利他心は集団生活を必要とする人類が進化の過程で得た本能であると考えられている。神道の世界観で育った日本人には当然のように思えるこの学説も、性悪説が支配するキリスト教国で唱えるのは、かなり勇気のいる事のような。



風日祈祭・修祓 (皇大神宮忌火屋敷前 / wikipedia commons)

「神道」を説明できないのか「1」での比較である。山村氏は神職の家系に生まれ、20代から30代にかけて全

5. 統制経済か、自由市場経済か

生きとし生けるものが自由、平等に生きていく。これも、各自が自分勝手にバラバラに生きていくわけではない。例えば、農民は大地を耕し、川から水を引いて水田を作り、そこに苗を植え、その苗が太陽の光を浴びて、稲が育つ。川から流れ込む水は川床からの養分を運び入れ、田んぼの中では藍藻類が空気中の窒素を固定して土を豊かにする。その水の中にはオタマシヤクシが住んでいて、枯れ草や藻などの有機物を食べて分解し、稲が吸収しやすい栄養分に変える。「B」

このように、生きとし生けるものが個々バラバラではなく、それぞれが「処を得て」互いに助け合って生きていく。人間と動物も同じである。米を作る人から町に運ぶ人、店を売る人など、人それぞれが「処を得て」互いに助け合い、社会全体を支えている。生きとし生けるものは、決して万能の神が設計し創造した機械の歯車ではない。それぞれが人体の各器官のように、自由平等に、かつ、主体的に協調し合っている。神の設計のもとで動く歯車では共産主義の統制経済に近いが、万物が処を得て自由に働く姿は、自由市場経済に通じている。

6. 宇宙は時計仕掛けか、生成発展するものか

古事記では、最初の神が現れた時「天地はまだ若く、水に浮く脂のように、海月のように漂っていて、しっかりと固まっていなかった」と説く。そこから、神々が国土を作り、その上で人々が田

を作り、水を引く。神や人や万物が力を合わせて何事かを生み出すことを、神道では「むすぶ」と呼ぶ。男女が結ばれて、家庭を作り子をなす。農民が土や水など力を合わせて作物をなす。「むすぶ」の「むす」は「うむす」が縮まった形で「うむ(産む)」と同じく、「物の成り出づる」ことを言う。「むす」は「むすめ」「むすぶ」は、この意味である。「むす」は「ひこ(産)」「ひめ(処)」など、「物の霊なるをいう美称」である。したがって、「むすぶ」とは万物を生産する不思議な働きを指す。「2」この「むすぶ」に示されるように、神道の世界観では世界は生成発展するものであり、人間もそのプロセスに参画する。

これに対して、キリスト教では唯一絶対神が宇宙を創造し、あとは人間も自然もその「時計仕掛け」の一部として運動を続けるのみである。この世界観では生物が勝手に進化するという進化論は受け入れられない。今でもアメリカでは42%の人々が「神が今の人間をそのままの形で作った」と信じている。「4」人間の努力も与って世界が生成発展するという神道の世界観は、人類が科学によって自然法則を発見し、それを応用して新たな技術を生み出すという技術革新を後押しする。

経済学者ヨーゼフ・シュンペーターはイノベーションが経済発展をもたらすことを主張したが、そのイノベーションとは既存の要素の「新しい結合」であると考えた。異なるものの「むすぶ」が新たな生成発展をもたらすという神道の世界観と同じである。技術革新は日本企業の強みであるが、それはこの「むすぶ」の考え方が後押ししているからと考えられる。特に現場の作業員一人ひとりが「改善」に参加するという日本の製造業における「改善サークル」「改善考案」は今や、世界の製造業のグローバルスタンダードになりつつあるが、その根底にあるのも人間が世界の生成発展に参画する、という神道の考え方だろう。

こうして見ると、現代のグローバル社会における環境運動、自由民主主義、大脳生理学、自由市場経済、技術革新などのトレンドは、みな神道の世界観と親和性が高いことが判る。逆にキリスト教的世界観と、現代文明はきわめて相性が悪いことが見とれる。考えて見れば、キリスト教が支配した中世から訣別して始まったルネサンスや宗教改革が西洋近代の出発点となった。そこから産業革命、自由民主主義、自由市場経済、つまりは現代の「リベラル」にまでつながっている。この点に関して、山村氏は田中英道・東北大学名誉教授の「日本人にリベリズムは必要ない」からこう指摘する。

西洋近代は、キリスト教との戦いの中で「キリスト教からの自由」を訴えざるを得なかった。しかし、それを追求する過程で、キリスト教が支えていた宗教的道徳も失うことになってしまふ。その結果の「神なき近代文明」が現代人から安心立命を奪ってしまったと言えるのではないか。

その結果を見ると、50%以上の外国人が、「日本には、古いものと新しいものが共存し、同居している」と「答えていました」。

古い神社や仏閣と最先端のハイテク技術がなぜ同居するの。また、日本人は新しいものを好む傾向があるのに、なぜ古いものを残そうとするの。日本人にとっては、神社以外にも仏閣や古く家屋の残る日本の当たり前の風景ではありますが、外国人から見れば、日本は「なぜか古いものが残っている」というのが、「ワンダーランド」に見えてしまっている。「1, 827」

外国人、特にキリスト教徒から見れば、「古いもの」「キリスト教」、「新しいもの」「現代文明」で、両者は基本的に相容れないところがある。しかし、日本では「古いもの」「神道」であって、それは以上述べたように、現代文明を包摂し、より良き方向に導く力を持ったものである。神道の世界観は現代文明の自由化、民主化、技術革新などを肯定しつつ、自然や共同体の中で共生し、より良く生きる道を教えている。そのような世界観の下で生まれた我々日本人の幸福をよく噛みしめつつも、外国人にもその世界観を共有する責務を我々が担っていることを知るべきだろう。

昨年の訪日外国人客数が2800万人を超え、政府は2020年には4千万人を目標としている。神道の世界観を世界に共有するには絶好の機会である。

しかし、神道は言葉よりも、まずは自然の美しさ、有り難さを感じるところから始まる。そのためには、各国首

脳が神宮参拝で感じとったように、まずは我々日本人がこの美しい国土を大切に、その姿を見て貰うことが出発点だろう。

【参考文献】
A. JOG (1071) 最新科学が解明する利他心の共同性 人間が進化の過程で獲得した利他心を最大限に発揮しうる仕組みをわが国は備えている。
B. JOG (707) 農が引き出す自然の恵み 農業は力では計れない価値を自然から引き出す。
C. 伊勢雅臣「世界が称賛する 日本人の知らない日本」、育鵬社、H28

【参考文庫】
1. 山村明義「日本人はなぜ外国人に「神道」を説明できないのか」、ベスト新書、H30
2. 竹田恒泰「現代語古事記」決定版、学研パブリッシング、H23
3. 凡社「神道大辞典 全三巻合本」(KINDLE E版)、桜の花出版、H28
4. GALLUP「IN U.S. BELIEVE CRE-ATONIST VIEW OF HUMAN ORIGINS」
https://news.gallup.com/poll/170822/believe-creationist-view-human-origins.aspx

国際派日本人養成講座
発行人=伊勢雅臣(文責)
Mail: ise.masaomi@gmail.com
Twitter: https://twitter.com/ise_masaomi
無料購読申込・取消: http://blog.jog-net.jp/

ニッケイ新聞大人気シリーズ! 最新刊販売中!!

日本文化

CULTURA JAPONESA

異彩放つ先駆者たちの軌跡

- 瀬下登 北米で活躍した開拓者
- 前田光世 佐渡の武道家
- 尾山良太 ジュート産業の立役者
- 岡本寅蔵 紅茶栽培に情熱をかけた男
- 後宮武雄 財閥出身の庶民ボーイ
- 中尾熊喜 慈善事業に献身した日系社会のリーダー

子供たちの日本を見る目が変わる!!

お買い合わせ販売 詳しくはニッケイ新聞社編集部まで ☎(11-3340-6060)、日系書店でも販売中! 地方発送も出来ます!

太陽堂 (11-3208-6588) ■ フォノマガ竹内書店 (11-3104-3399) ■ 高野書店 (11-3209-3313)

Terremoto (13/09/2018)

Terremoto de Hokkaido pode ter causado pressão sobre falha geológica nas proximidades

Um especialista afirma que uma nova pressão pode ter sido aplicada em uma grande falha ativa próxima do epicentro do terremoto que atingiu a província de Hokkaido, no norte do Japão, na quinta-feira passada.

Shinji Toda, professor da Universidade de Tohoku, analisou os efeitos do tremor de magnitude 6,7 so-

bre falhas ativas nas proximidades com base em dados de pesquisa. Toda disse que a análise indica que a pressão pode ter sido aplicada em parte de uma área a 15 quilômetros de profundidade no lado sul de uma falha ativa localizada a noroeste do epicentro. Um painel governamental sobre pesquisas de sismos informou

que a principal parte da falha tem cerca de 66 quilômetros de comprimento, percorrendo a planície de Ishikari de norte a sul. O painel informa que a probabilidade da falha causar um terremoto de grandes proporções dentro de 30 anos é quase zero, mas que se a falha inteira se mover, isso poderia causar um tremor de magnitu-

de 7,9. Toda disse na semana passada que o terremoto não causou um forte estímulo na falha, mas que o impacto não pode ser ignorado. Ele pediu cautela, afirmando acreditar que a região nas proximidades vai permanecer sensível a terremotos por um longo período.

Diplomacia (14/09/2018)

Japão e EUA devem discutir questões comerciais

O Japão e os Estados Unidos estão preparando uma segunda rodada de discussões sobre o que classificam de comércio “livre, justo e recíproco”. O ministro japonês da Revitalização Econômica, Toshimitsu Motegi, conversou por telefone

com o representante americano do comércio exterior, Robert Lighthizer. Eles acertaram uma reunião que pode ocorrer já na sexta-feira da próxima semana. O encontro antecederia a cúpula nipo-americana a ser realizada nos bastidores da Assem-

bleia Geral das Nações Unidas em Nova York. Os Estados Unidos querem negociar um acordo de livre-comércio. Já o lado japonês prefere um acordo comercial multilateral. Donald Trump pede que autoridades japonesas to-

mem medidas concretas para reduzir o déficit comercial com os Estados Unidos. Analistas apontam que os americanos devem pedir ao Japão a abertura de seus mercados automotivo e agropecuário.

Diplomacia (14/09/2018)

Premiê japonês ressalta importância da próxima reunião de cúpula com Putin

O primeiro-ministro do Japão, Shinzo Abe, diz que a próxima reunião de cúpula com o presidente da Rússia, Vladimir Putin, será essencial para melhorar as relações entre os dois países. Abe falou, na sexta-feira, em um debate promovido pelo Clube Nacional de

Imprensa do Japão. Ele se referiu a uma proposta feita por Putin, na quarta-feira, para que os dois países assinem, até o final do ano, um acordo de paz sem o estabelecimento de condições prévias. O premiê afirmou que considerou a declaração como uma expressão de entu-

siasmo de Putin por um tratado de paz, mas que é necessário entender o que o presidente quis dizer com isso. Abe enfatizou que a posição do governo japonês sobre o tratado de paz continua a mesma, ou seja, que não pode haver acordo sem a resolução

da questão dos Territórios do Norte. A Rússia controla as 4 ilhas. O Japão as reivindica. O governo japonês mantém a posição de que as ilhas são parte inerente do território japonês. Diz que as ilhas foram ocupadas ilegalmente após a Segunda Guerra Mundial.

Diplomacia (13/09/2018)

Governo japonês reitera que acordo de paz com a Rússia depende da resolução de questão territorial

Na quarta-feira, o secretário-chefe do Gabinete do Japão, Yoshihide Suga, reiterou a posição do governo de que nenhum acordo de paz pode ser assinado com a Rússia antes da resolução da questão das ilhas conhecidas como Territórios do Norte.

Suga declarou à imprensa que o presidente russo, Vladimir Putin, não fez menção à assinatura incondicional de um acordo de paz durante seu encontro de cúpula com o primeiro-ministro japonês, Shinzo Abe, na segunda-feira.

Algumas autoridades do governo declararam ser necessário acompanhar com cautela como a Rússia irá abordar o tema. Segundo elas, o Japão jamais deveria aceitar negociações que possam levar ao engavetamento da questão territorial.

Por sua vez, Abe está tentando explorar as verdadeiras intenções de Putin por meios dos canais diplomáticos, entre outros. Com isso, ele visa avançar nas negociações para a assinatura de um tratado de paz bilateral que também resolva a questão dos Territórios do Norte. Os dois líderes concordaram em realizar uma nova rodada de negociações nos bastidores dos próximos encontros internacionais.

Diplomacia (12/09/2018)

Premiê do Japão e presidente da China concordam em melhorar relações bilaterais

O primeiro-ministro do Japão, Shinzo Abe, e o presidente da China, Xi Jinping, afirmaram que vão trabalhar para melhorar as relações bilaterais. Como parte disso, o premiê japonês declarou a repórteres que levará adiante o plano de visitar a China no próximo mês. Os dois líderes se encontraram, na quarta-feira, paralelamente a um fórum econômico realizado no

leste da Rússia. Abe afirmou: “O horizonte se amplia para a cooperação entre o Japão e a China. As relações entre os nossos países estão, agora, no campo da normalidade”. Já Xi declarou: “Através da cooperação mútua, as relações entre a China e o Japão estão voltando à normalidade. Nós precisamos continuar a cooperar e promover as relações

sino-japonesas para desenvolver uma relação estável que siga adiante em prol de um desenvolvimento ainda maior”. Shinzo Abe declarou à imprensa que Xi Jinping e ele concordaram em promover a fundação da paz e prosperidade no Nordeste Asiático por meio da elevação das relações bilaterais a um novo plano. Eles também reafirmaram que vão cooperar de maneira próxima no tocante à Coreia do Norte. Abe declarou que ambos concordaram que seu objetivo em comum é a desnuclea-

rização de toda a Península Coreana. O premiê japonês disse ainda que Xi acolheria sua visita de bom grado. Shinzo Abe afirmou que funcionários governamentais trabalharão para que a viagem à China ocorra já no próximo mês. Há um ímpeto crescente para a melhora das relações, já que os dois países se preparam para celebrar o 40º aniversário de um tratado bilateral de paz e amizade, no dia 23 de outubro.

Caça de Baleias (14/09/2018)

Comissão Baleeira Internacional pede criação de um novo santuário para baleias

A Comissão Baleeira Internacional adotou uma declaração sem força legal para a criação de um santuário para baleias no Atlântico Sul.

Representantes de 89 países membros da comissão estão participando de uma reunião geral de cinco dias que teve início na segunda-feira em Florianópolis.

A declaração proposta pelo Brasil foi adotada na quinta-feira com 40 países a favor, 27 contra e 4 abstenções. O Japão está propondo

reinicar a pesca comercial de baleias de algumas espécies. O país alega que o número está se recuperando desde que a comissão suspendeu a pesca comercial em 1988.

NHK WORLD

JAPAN

Estas notícias são produzidas pela NHK WORLD-JAPAN.
nhk.jp/portuguese

Eleição (13/09/2018)

Tem início campanha eleitoral para o governo de Okinawa

Teve início oficialmente a campanha eleitoral para o governo da província de Okinawa, no sul do Japão. Os candidatos devem discutir o controverso plano de transferência de uma base militar dos Estados Unidos dentro da província, além de como revitalizar a economia de Okinawa. Quatro pessoas registram suas candidaturas. São elas: Atsushi Sakima, ex-prefeito de Ginowan; Denny Tamaki, ex-legislador da Câmara Baixa do Parlamento japonês e secretário-geral do Partido Liberal; Hatsumi Toguchi, professora de culinária; e Shun Kaneshima, ex-em-

desejo de Onaga. Trata-se da oposição ao plano do governo central de transferir a base aérea de Futenma, pertencente ao Corpo de Fuzileiros Navais dos Estados Unidos, para o distrito de Henoko, na cidade de Nago. A localidade se situa dentro de Okinawa. O falecido governador queria transferi-la para fora da província. A base aérea se localiza em uma área densamente povoada de Ginowan. Funcionários governamentais em Washington e Tóquio querem transferir a base para uma área costeira de Henoko, em Nago, visando reduzir o potencial perigo representado pela instalação. Atsushi Sakima, por sua vez, não se manifestou se é a favor ou contra o atual plano de transferência, mas disse que vai negociar com Tóquio e Washington para que a área da base de Futenma seja devolvida o mais rápido possível.

presário. A eleição ocorrerá pouco mais de um mês depois do falecimento do governador anterior, Takeshi Onaga, devido a um câncer do pâncreas. A corrida é vista como um confronto direto entre Sakima e Tamaki. Este último expressou sua intenção de apoiar o último

Aplicativos gratuitos da
NHK WORLD - JAPAN
TV em inglês em 24 horas

NHK WORLD TV

*Para iOS, Android e Amazon Fire

Chegou o mais novo volume

Cultura Japonesa 8

Entendendo o Japão

UMA ANÁLISE DOS ACONTECIMENTOS ATUAIS, DA HISTÓRIA E DA CULTURA

OS PIONEIROS DA IMIGRAÇÃO JAPONESA

Que sentimentos apossaram a alma dos primeiros imigrantes japoneses ao chegar ao Brasil cortando de vez seus vínculos com a terra natal? É de se imaginar que haja por trás disso, histórias. Não apenas da dura vida de privações que levavam, mas também, de amores e de aventuras. Decorridos 110 anos desde o início da imigração japonesa no Brasil, o momento é propício para recordar como eram esses imigrantes pioneiros. Gente como eles, cheios de vitalidade, que se projetaram do Japão mundo afora, compondo a ebuliente sociedade inicial dos imigrantes no Brasil. É dela surgiu a sociedade nikkei desta terra.

Todos os textos em japonês e português

*OS TEXTOS EM JAPONÊS VÊM COM FURIGANA PARA FACILITAR A LEITURA. IDEAL PARA O ESTUDANTE DE LÍNGUA JAPONESA

NOBORU SESHIMO, CONDE KOMA, RYOTA OYAMA, TORAZÔ OKAMOTO, TAKEO ATOMIYA E KUMAKI NAKAO

PIONEIROS DA HISTÓRIA DA IMIGRAÇÃO SUAS VIDAS DETALHADAS AQUI!

Leia, conheça, colecione, presenteie!

Lançamento Jornal Nikkei Shimbun e Biblioteca Jovem de São Paulo

INFORMAÇÕES E VENDAS

Jornal Nikkei Shimbun (11-3340-6060), Livraria Fonomag (11-3104-3399), Livraria Sol (11-3208-6588), Livraria Takano (11-3209-3313)

Para adquirir o livro através dos Correios, entrar em contato com as Livrarias.

特集 西本願寺

み教えは生きるよりどころ

第5回南米門信徒大会 大谷光淳第25代門主が来伯

浄土真宗本願寺(西本願寺)南米教団(梶原マリオ総長)は「第5回南米門信徒大会」を今月9日、聖州アチバイア市内のホテル「Bourbon Atibaia Convention & Spa Resort」で開催した。2014年に就任した大谷光淳第25代門主(41)が初めて来伯。全伯とアルゼンチンから門信徒約800人が集まり門主就任を祝福するとともに、ブラジル開教の志を新たにしたい。



挨拶をする大谷光淳第25代門主

門信徒大会は門主の11年ぶり。スローガに「うけつぐ伝燈、伝えるよるこび」には、門主の務めを第25代が受け継いだことと、ブラジルに教えを伝えることの2つの意味が込められている。大会は午前9時に始まり、ブラジル各地とアルゼンチン・ブエノスアイレスから門信徒800人が出席した。第25代門主は挨拶で「浄土真宗の教えは、南米の地で多くの方の生きるよりどころとなります。大会を機縁として、み教えがより多くの方々に伝わることを願っております」と話した。



厳かに執り行われた移民110周年記念追悼法要



▲門信徒800人が集まった



三浦住職による法話コンサート

三浦住職は05年に住職に就任し、11年に歌手デビューした。三浦さんが作曲、南米開教区一同が作詞した「ともびびりAcham a」など日本語が入り混じった曲や、童謡などを美しい歌声で歌った。後半にはギターによる「住んでいても、私たちが生きていくうえで悩みに生きている。その時に苦しむはある。その時に支えになる教えが浄土真宗であり、時代や場所に関係なく教えが伝わっている。『三浦の開教区をどのように支援しますか』。この時代の時代は日系人も日本語が話せない人が増えていく。また非日系人にも教えを伝えていくことができる。ポルトガル語を中心とした教えを知ってもらいたい」と話した。

門信徒大会は門主の11年ぶり。スローガに「うけつぐ伝燈、伝えるよるこび」には、門主の務めを第25代が受け継いだことと、ブラジルに教えを伝えることの2つの意味が込められている。大会は午前9時に始まり、ブラジル各地とアルゼンチン・ブエノスアイレスから門信徒800人が出席した。第25代門主は挨拶で「浄土真宗の教えは、南米の地で多くの方の生きるよりどころとなります。大会を機縁として、み教えがより多くの方々に伝わることを願っております」と話した。

見方をする状態を悟りと言う。と仏教の基本的な考え方を述べた。また、「仏教は成道を目指すもの。成道は山の麓から頂上への通じる道のようなもので必ずしも一本ではない」と論じた。梶原総長は「ご門主がいらっしゃったことで、すべての僧侶と門信徒がますますブラジルの地にみ教えを根付かせよう」と話した。

三浦住職の法話コンサートも 手拍子で若者盛り上がる

同じく別室で、龍王山光明寺の三浦明住職が、青少年向けに法話コンサートを行った。三浦さんは05年に住職に就任し、11年に歌手デビューした。三浦さんが作曲、南米開教区一同が作詞した「ともびびりAcham a」など日本語が入り混じった曲や、童謡などを美しい歌声で歌った。後半にはギターによる「住んでいても、私たちが生きていくうえで悩みに生きている。その時に苦しむはある。その時に支えになる教えが浄土真宗であり、時代や場所に関係なく教えが伝わっている。『三浦の開教区をどのように支援しますか』。この時代の時代は日系人も日本語が話せない人が増えていく。また非日系人にも教えを伝えていくことができる。ポルトガル語を中心とした教えを知ってもらいたい」と話した。

狭組寛成寺の内藤知康住職による基調講演がポルトガル語で行われた。「キリスト教と異なり、仏教は国によって経典が違う。迷いから悟りを目指すという構造が共通している。私たちが間違っているのを見方をしていることを迷いと言います。正しい見方をする状態を悟りと言います。と仏教の基本的な考え方を述べた。また、「仏教は成道を目指すもの。成道は山の麓から頂上への通じる道のようなもので必ずしも一本ではない」と論じた。梶原総長は「ご門主がいらっしゃったことで、すべての僧侶と門信徒がますますブラジルの地にみ教えを根付かせよう」と話した。

南米教団と門主巡教の歴史

世相を反映する 布教活動

戦前の日本国外務省が僧侶のブラジル渡航を許可しないうちにあつて、最初に渡伯した真宗僧侶を持つ門徒移民は1914年の伊藤助次郎だ。戦前から熱心な僧侶や篤信な宗門徒らが各地で布教活動を行っていた。1950年に終戦後、1950年にこの巡教活動に影響を与えていた。第23世門主なるものを統率することを目的とした「全伯仏教会」が発足した。54年、大谷光淳第23世門主が初めて来伯し4カ月にわたって各地を巡教した。敗戦で祖国に帰ることをあきらめた日本移民にとって、寺院は心の依りどころだった。一方、勝ち組と負け組み対立が尾を引いていく。70年代になるとすでに多くの開教師が日本から来伯して、一世の高齢化と共に、ブラジルの門信徒数は年々減少してきており、現在約5千人。第25代門主は「日本語が話せない日系人や非日系人に教えを知ってもらうために、ポルトガル語による開教が必須である」と話した。仏教の教えは時代を経ても変わらない。しかし、教えの伝え方は時々の世相を反映して移り変わっていく。

大谷光淳第25代門主は2002年に巡教して以来16年ぶりの来伯だ。14年6月の法統継承式を経て就任した。今回が門主としては初の来伯だ。10月1日に到着し、10月9日、聖州とパラナ州内10カ所を訪問し、各地で帰郷式を行った。帰国前日の9日、ブラジルでの巡教や海外での開教に目的はブラジルの開教区の方々にそのことを知ってもらいたい。門主として大谷光淳第25代門主に聞いた。今回の来伯の目的を教えてください。父の後を受けて本願寺派の門主になり、京都で皆様に一緒に阿弥陀様に報告する法要を80日間お勤めをした。今回の目的はブラジルの開教区の方々にそのことを知ってもらいたい。門主として大谷光淳第25代門主に聞いた。今回の来伯の目的を教えてください。父の後を受けて本願寺派の門主になり、京都で皆様に一緒に阿弥陀様に報告する法要を80日間お勤めをした。今回の目的はブラジルの開教区の方々にそのことを知ってもらいたい。

「時代と場所を超えて伝えたい」 大谷光淳第25代門主は2002年に巡教して以来16年ぶりの来伯だ。14年6月の法統継承式を経て就任した。今回が門主としては初の来伯だ。10月1日に到着し、10月9日、聖州とパラナ州内10カ所を訪問し、各地で帰郷式を行った。帰国前日の9日、ブラジルでの巡教や海外での開教に目的はブラジルの開教区の方々にそのことを知ってもらいたい。門主として大谷光淳第25代門主に聞いた。今回の来伯の目的を教えてください。父の後を受けて本願寺派の門主になり、京都で皆様に一緒に阿弥陀様に報告する法要を80日間お勤めをした。今回の目的はブラジルの開教区の方々にそのことを知ってもらいたい。

「住んでいても、私たちが生きていくうえで悩みに生きている。その時に苦しむはある。その時に支えになる教えが浄土真宗であり、時代や場所に関係なく教えが伝わっている。『三浦の開教区をどのように支援しますか』。この時代の時代は日系人も日本語が話せない人が増えていく。また非日系人にも教えを伝えていくことができる。ポルトガル語を中心とした教えを知ってもらいたい」と話した。

FEDERAÇÃO BUDISTA SUL-AMERICANA JODO SHINSHU HONPA HONGWANJI 浄土真宗本派本願寺南米教団 Visita do 25º Patriarca na América do Sul Congresso de Adeptos Budistas 第25代専如門主南米開教区ご巡回 南米門信徒大会

第24世門主の巡教の様子 (83年、『南米教団六〇年史』より)

戦前の日本国外務省が僧侶のブラジル渡航を許可しないうちにあつて、最初に渡伯した真宗僧侶を持つ門徒移民は1914年の伊藤助次郎だ。戦前から熱心な僧侶や篤信な宗門徒らが各地で布教活動を行っていた。1950年に終戦後、1950年にこの巡教活動に影響を与えていた。第23世門主なるものを統率することを目的とした「全伯仏教会」が発足した。54年、大谷光淳第23世門主が初めて来伯し4カ月にわたって各地を巡教した。敗戦で祖国に帰ることをあきらめた日本移民にとって、寺院は心の依りどころだった。一方、勝ち組と負け組み対立が尾を引いていく。70年代になるとすでに多くの開教師が日本から来伯して、一世の高齢化と共に、ブラジルの門信徒数は年々減少してきており、現在約5千人。第25代門主は「日本語が話せない日系人や非日系人に教えを知ってもらうために、ポルトガル語による開教が必須である」と話した。仏教の教えは時代を経ても変わらない。しかし、教えの伝え方は時々の世相を反映して移り変わっていく。